

第15回全日本高校模擬国連大会【書類課題講評】

グローバル・クラスルーム日本協会 2021年度 選考統括 中山創太
研究次長 柿崎瑞穂

この度は、全日本高校模擬国連大会に多くの参加申し込みをいただき誠に有難うございました。本年度は述べ 216 チームにご応募いただきました。皆さんに提出いただきました書類選考課題につきましては、1ヶ月弱の時間をかけ、10名の選考員で審査いたしました。その結果を踏まえ、11月に開かれます本大会に出場いただくチームを本日、この講評と共に発表させていただきました。

選考結果を受け、安堵したり、11月の大会に向けてモチベーションを高めたりしているチームがある一方で、行き場のない悔しさを噛み締めるチームも少なくないことと思います。今回ご応募いただいた全てのチームにとって、この選考結果が大きな意味を持つことは想像に難くありません。しかし、書類選考課題の作成・審査を統括した立場としては、じっくりとこの書類選考課題に向き合ったこと自体が、皆さんにとって価値のある経験であってほしいと願っています。

講評では、本年度の課題の指針や各設問の審査基準、そして審査を踏まえた所感をお伝えさせていただきます。結果の如何にかかわらず、最後まで目を通していただき、次なる成長の種を一つでも見つけていただければ幸いです。

選考目的と指針

この書類選考は、本大会に参加するにあたって担当国の理解および議場での議論・交渉に必要な能力を有しているかを審査します。

これは単に本大会で高いパフォーマンスを発揮できればよいというだけでなく、本大会を通じて、積極的に学びを深めることが期待できる参加者を選抜するために行っております。

その審査においては、単純な知識量ではなく、論理的な思考能力、基本的な言語運用能力、適切な課題設定能力、リサーチ能力、資料理解・分析能力といった学びの力を重視しております。

加えて、模擬国連を行う上での必要なプロセス－議題・担当国理解、会議想定・戦略立案、会議での議論・交渉－を意識し、上記能力をそのプロセスの中に落とし込みながら審査する形で、実際の会議でパフォーマンスを発揮できるかどうかも一定程度審査しています。

また審査の際には、定量的かつ客観的な基準を設けたり、複数の選考員による多重審査を行ったりすることによって、正確な審査ができるような工夫を施しました。

選考課題・問1 に関して

選考課題の問1は、用意した論文を正確に理解し、また課題達成に必要な部分を的確に抽出してまとめることができるかどうかを問いました。これは実際の議題・担当国理解において必要な能力でもあります。

具体的には、以下のような審査基準で行いました（簡略化済み）。

EU の特徴	単一市場の形成や移動・職業選択の自由といった基本的な EU の特徴を押さえられている
移民問題とその対応	東方拡大と所得格差による移民流入問題の発生
	好景気下にあったイギリスの移民受け入れ
不安の発生	リーマンショックによる景気悪化
	雇用喪失と社会保障制度のひっ迫に対する不安

所感として、基本的な論述形式の問題であったために比較的得点はよく、特に問題の直接的な回答であった英国国民の不安に関してはよく答えられていました。

そういった中で、その不安がなぜ生じたのか、そもそも移民問題はなぜ生じたのかという背景説明を過不足なくできていたかが差を生んでいました。このように単に結論を調べるのではなく、その背景・動機・因果をおさえたり、時として論理的に想像したりする力は非常に重要なものであります。

選考課題・問2 に関して

選考課題の問2は、国あるいはグループの利益を分析し、それをもとに条文のような具体的な行動にまで落とし込めるか、また適切な議論を特定の立場をもって行えるかという、実践的な問でありました。

具体的には、以下のような審査基準で行いました（簡略化済み）。

基本的な主張 (スタンス)	(途上国) 先進国により重大な責任 (差異ある責任) 先進国の歴史的・能力的責任 途上国への配慮の必要性
	(先進国) 平等な責任 世界的な取り組みの必要性 途上国の経済成長
条文の懸念点	(途上国) 先進国と同等目標への移行 (責任の強弱) など
	(先進国)

	指標の変化につながりうる、根拠・実現性のある具体的な対応を想定しているか
エネルギー（安全保障）との関連性	上記の課題と対応が持つ、エネルギー安全保障（資源調達と国内補給）への影響を論理的に明示しているか

(1)の所感として、データとそれに基づく主要国の比較をしていますが、そこから何が言えるのか、課題がどこにあるのかを判断して明示しているかどうか重要な差となりました。

(2)については、脱炭素化への施策・政策に注力した回答が散見されたように思います。その結果、本来の問いである指標分析と、そもそもの指標が包摂しているエネルギー安全保障という分野への影響・貢献が説明しきれていないことが多々ありました。

問3に通底することとして、データを客観的に分析できるか、そして設定されたあるいは自分で設定した課題に対する回答を導くためにデータを適切に使えるか、という要素が最も重要なポイントであり、また回答に差を生んだポイントでもありました。

選考課題・問4に関して

選考課題問4は、基本的な言語運用能力を確認するとともに、適切なりサーチとそれをまとめる能力を問うものであります。

具体的には、以下のような審査基準で行いました（簡略化済み）。

NGOの地位	オブザーバー・諮問団体として参加している 決定権はないが、協議・助言・監視をすることができる
NGOの目的・役割	専門家としての知見・情報を提供する
	市民社会の代表として世論を反映し、政治参加を促す
	国連を補完する実行主体としての手段を提供する
英語能力	文法・スペルミスなど基本的な確認

所感として、NGOの具体的な例を挙げて説明できていた回答が多くあったものの、その例が結局何を意味するのかまとめられていないものが散見されました。

また、「国際連合における政策作成プロセス」という設問の指定に従い、その視座からNGOの地位や目的・役割を分析できていたかが差異であったと思います。

この問題は基本的な能力を問うものでありながら、副題として、国際連合ひいては模擬国連の組織・政策策定プロセスについて知ってもらうという意図もありました。

総評

今回の書類選考を通して、どの回答もそれぞれなりに苦悶し、研究したうえでの回答であったように感じ、全体として非常に意欲のある回答であったと思っています。

一方で、各設問においては確かに差異があるものでもありました。選考課題全体としては、

2021年10月1日

各設問の誘導に適切に応答し、各要素の軽重・要点と設定字数中でのバランスをとらえていた回答に高評価が与えられていたように思います。

また特に重要だと感じたのは設定された課題あるいは調べる際に自ら設定した課題に応答しているかを検討し、必要かつ核心的な要素をおさえる点です。論理的な構造と対応関係を持った回答は高評価でありましたし、これは模擬国連においても、また広く学習においても有益なものだと思います。

最後に、この選考がもし皆様に模擬国連活動への関心を惹起し、何かしらの知見を提供していれば、選考統括としてこれ以上なく嬉しく思います。

選考に関する個別の問い合わせは一切お答えできませんので、ご了承ください。